

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：21020

学校名：資生館小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 反復横跳び ○全国平均を上回る、やや上回る種目 握力 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均をやや下回る、下回る種目 上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50m走、ソフトボール投げ、20mシャトルラン、50m走 	前年度を下回る種目が多かったが経年での大きな推移はなかった。一方で、シャトルランや50m走の記録が全国平均を大きく下回っており、全身持久力や走能力の向上が喫緊の課題である。
体力・運動能力 <女子>	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、ソフトボール投げ、立ち幅跳び ○全国平均と同程度であるがやや上回る種目 握力、長座体前屈 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均をやや下回る、下回る種目 上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、20mシャトルラン、50m走 	前年度の記録を上回る種目が多く、全国平均との差も縮まっていた。一方で、男子同様にシャトルランや50m走の記録が全国と比較して低く、全身持久力や走能力に大きな課題がある。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動やスポーツをすることが好き」と回答する子どもの割合 R6 男子:70.4% 女子:60.6% R7 男子:72.4% 女子:61.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合 R6 男子:16.0% 女子:28.2% R7 男子:13.8% 女子:27.5% 	運動やスポーツに対する愛好的態度は全国と比較して大きな差はない。一方で、前年度と同様に運動時間が少ない児童の割合が高い傾向にあるため、子どもが日常から主体的に運動に取り組めるような授業や取組を考えていく必要がある。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

○運動の楽しさに触れられる「課題探究的な学習」の推進

- ・自己の能力に応じて選択を伴いながら誰一人取り残さず運動の特性に触れることができるような教材化の工夫。
- ・主運動とのつながりを意識したウォーミングアップ、モチベーションアップ、スキルアップ、フィジカルアップできるような準備運動の実施。
- ・振り返り活動の充実

○子ども自身が自ら運動したくなるような「きっかけ」づくり

- ・休み時間の遊びの種類を増やすことでより多くの運動や体を動かす遊びに触れる機会を創出する環境整備。
- ・委員会活動や学級活動を通じたなわとび運動の充実。
- ・委員会活動による運動機会（運動集会、スポーツフェスタ等）を創出する取組の立案と実現。
- ・朝活動における運動に触れる時間を設定する試行的な取組。

○自己を見つめ直しながら、健康の大切さを認識し、より健康的な生活を送ろうとする態度の醸成。

- ・学校保健計画の再考による、関連性を意識した指導時期の見直し
- ・子どもが自己を見つめ直すことができるような健康教育の指導展開・内容の改善
- ・養護教諭や栄養教諭との連携を通じた実践的・体験的な保健学習の充実。
- ・全校を対象とした生活習慣・運動習慣等についての啓発

家庭・地域との連携・協働

- ・スキー学習でのインストラクターに指導補助を依頼することで、安心・安全な学習を進められるようにしていく。
- ・専門家(SC、学校医等)をゲストティーチャーとして招き、生の声や動きに触れられる機会を設けていく。
- ・家庭への子どもの体力・運動能力、運動習慣等に関わる調査結果の発信や健康づくりに関わる啓発を進めていく。

